男子の前で行われるブラジャー着用許可検査

この学校にあった奇妙な校則。それは、女子がブラジャーを着用するには、正式な許可が必要というものだ。

ブラジャーをつけたいと思った女子は、つけるためには必ず担任に申し出なければならない。申し出た女子は、その日の帰りの会で教室の前に立ち、男子も含めたクラス全員の前で上半身を露出し、アンダーバストとバストトップを測定される。差が12センチ以上、つまりBカップ相当以上と判定され

ればブラジャー着用の許可が下り、次の日から着用が認められる。

Aカップ以下とされれば不可となり、再度成長して申告するまでブラジャーをつけられない。これが長く続いている校則であった。

6年4組の教室で、帰りの会が始まろうとしていた。男子生徒たちは席につきながら、今日は誰がおっぱいを測られるのかを小声で確認し合っていた。「3人らしいぞ」「誰なんだろう」これから検査を受ける3人が前に立つことになる。教室の空気の中に、いつもの緊張が混じり始めていた。

担任が入室し、すぐに名簿を確認した。「はい、じゃあ今日もブラジャー着用許可検査を行います。今日は、

え一っと、佐藤と、鈴木と、田村だね。前に出なさい」

最初に席を立ったのは佐藤優衣だった。優衣は制服のブラウスを着たまま、教卓の前まで歩いていく。クラス中の視線が集まる中、彼女は足を止め、先生の指示を待った。他の生徒は全員着席したまま優衣を見つめる。先生は淡々と告げる。「ブラウスとシャツを脱いでください。上半身裸の状態で測定します」